



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 池田英雅

第16号

令和三年三月一日発行

真言宗豊山派
佐渡宗務支所

発行責任者
編集委員長

池田 英雅
加藤 龍久

発行所
新潟県佐渡市新穂大野一二四・一
清水寺中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

See you again

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 池田 英雅

パンデミック、クラスター、オーバーシュート…聞きなれない横文字が令和二年初頭よりメディアを席巻し、我々にとっては大切な「三密」という言葉も違った意味で使用される始末。未知なるウイルスに不慣れた生活を強いられ、当支所においても団体参拝他、ほぼすべての事業が中止に。『支所だより』の発刊も遅れ、皆様にご迷惑をお掛けしたこと、深くお詫び申し上げる次第です。

コロナ禍で感じたことは、STOPコロナなのか、WITHコロナなのかということ。コロナ他、人体に悪影響なウイルスを完全除去はできないし、人間の抵抗力を信じ以前と同じように生活するのも極端な考えだ。やはりマスク、除菌などの予防対策するのが適切であり周囲に迷惑をかけない無難な行動であろう。

以前に「中道」の事を取り上げたが、要約すれば「両極端(有・無、断常など)な考えを超越した立場」となるが、実は私はあまり好きな言葉ではない。字面から「中庸」を想起し没個性を促しているように感じるし、このことを説く人は自我(自己顕示)の押し売り、自説の正当性を主張しているだけで他人の意見に耳を傾けない人と感じてしまう。多くの人の意見を傾聴し興味をもつて布教というものを考えて行きたいし、特に葬儀の場では檀信徒・会葬者の行動、会話から、その方たちの「宗教観」を観察している。十人十色、自分が感心する意外な言葉、行為に出会うことも多い。皆様も仏教において疑問に思っていることを菩提寺のご住職に投げかけてみてはいかがですか。

この巻頭の「令和の色男」こと私の挨拶も今回で最後です。四年間お付き合いいただき、ありがとうございました。毎号のごとく編集会議で叱られ、今号の編集会議でも…自分では分かりやすく難解な仏教語はなるべく使わず、かみ砕きながら布教しているつもりではあったのですが、話があらぬ方向へ進むこともしばしば。どこかで私と出会いましたら気軽に声をかけてください。また、会いましょう!!

コロナ禍における人と人の心の距離

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 布教長 加藤 龍久

令和二年二月からの新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常生活に大きな変化をもたらしました。四月に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出の自粛でかなりストレスが溜まることを体験しました。店舗の休業・営業時間の短縮は経営者、従業員に計り知れない苦労をもたらしました。病院・福祉施設での見舞い・面会ができなくなり心配が募りました。観光客が途絶え島内観光地は閑散としていました。トライアスロンなど各種のイベントが中止・延期になり活気が失われました。学校が休校になり児童・生徒は学習できませんでした。スポーツ大会もことごとく中止になりました。

そして、マスクの着用は国民のスタイルに定着し、三密(密接・密集・密閉)は人と人の距離を遠くしました。コロナ禍の終息が見通せず、新しい生活様式が知らず知らずのうちに定着していった時、人と人の距離は離れ、お互いの心の距離・信頼の距離が遠くなり、薄れてしまふことを危惧しています。



仏心を育てる花祭り 新穂仏教会

さて、寺院における年中行事や法事や葬儀はどんな変化が起きているのでしょうか? 全てのことが省略・簡略化傾向になりました。ご縁の深い家族、親族、友人知己が同じ場所・時間を一緒に過ごし、深い悲しみを、忘れてはならない感謝の気持ちとを共有することが制限されてしまったのです。初めて経験したコロナ禍の中からオンラインによる法事参列が出てきました。私たちもくじけはなりません。

知恵を絞り、工夫を重ねてこのコロナ禍を乗り越えて行きましょう。

◎新型コロナウイルス感染症影響のため、支所下寺院活動においてもかなりの影響がありました。そのような影響下の中、工夫を凝らした活動をされた御寺院を紹介いたします。

コロナ禍の中の大般若会

支所下十三番 佐渡市新穂長畝 東光院住職 加藤 龍久



令和二年七月十八日東光院祭りを実施しました。嘉永元年（一八四八年）から続けてきた大般若経六百巻の転読です。今年は新型コロナウイルス感染症拡大で寺院行事を実施するか取り止めるか思案しました。幸い佐渡で感染の発表がありませんでしたので、実施に踏み切りました。

全員にマスクの着用をお願いし、手指消毒、予防対策を徹底しました。一緒に飲食することもあり取り止めました。常には大般若経六百巻を大音声で唱えるのですが、今年僧侶方は薬師如来の梵字を書いたマスクを付けて飛沫が飛び散らないように配慮しました。息苦しく窒息死しそうでした。（笑）
コロナウイルス終息を祈願した大般若をいろいろ配慮して無事成満できました。

お施餓鬼会の中止、でも・・・

支所下六十五番 佐渡市月布施 観音寺住職 小野 法龍

当寺ではお盆の棚経の折やお施餓鬼法会の際には自防で手作りの五如来幡とともに、当宗派で布教の一環である『光明』を、お檀家の皆様にお配りすることを習わしとしています。ですが、今年度はコロナ禍で夏季号の発行が中止となったことや、三密を回避するために施餓鬼法会を自粛したことなどから、単に五如来幡だけでなく、盆供にそれを掲げる意義を記したプリントと

一緒にお配りいたしました。

幡は染め紙をハサミで細かく切って作るのですが、写真の通り過去宝勝如来Ⅱ黄、妙色身如来Ⅱ青、甘露王如来Ⅱ赤、廣博身如来Ⅱ白、離怖畏如来Ⅱ黒で金剛界仕様となります。私がお盆にお配りしたプリントに「反省の営みをするお経を唱える」との件があるのですが、少しそのことに触れてみましょう。

お経の中では五如来名号が肝要で、その出だしは「南無過去宝勝如来除慳貪業福智円満」「南無妙色身如来破醜陋形円満相好」と続きます。音で聞くとチンプンカンプンですが、字を見れば「なるほど！」とお気付きの皆様もいらつしやることと思います。

「除慳貪業」は皆様が真言念仏の際に必ずお唱えする十善戒の「不慳貪」と同じことです。意味は（むさぼらない）こと。むさぼらないことは、彼岸へ到る六つの心得（六波羅蜜）で説かれる（布施）に通じる戒めです。「福智円満」は説明するまでもないでしょう。

「六道」の餓鬼道に堕ちた人々を、そしてご先祖を供養するお盆は私共にとって今の生活を振り返ってみる良い機会でもあるのです。

ろつばらみつ かせ じかい にんにく しやうじん ぜんじよう ちえ
※六波羅蜜―布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧。菩薩が実践する六種の基本的な修行項目。

※六道―輪廻している衆生が生まれる六つの状態。地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天。六観音、六地藏、六道銭（六文銭）、六道の辻はこれに由来する。六趣。



五如来幡



五如来名号

仏 婦 会 長 に 就 任 し て

支所下四十番 多聞寺寺庭婦人 仏教婦人会会長 土賀 紀子

令和二年度より仏教婦人会佐渡支部の会長に就任することになりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により今年度の総会・研修会は中止を余儀なくされました。

仏婦佐渡支部の今までの主な活動は仏婦本部主催の各種記念行事、式典参加をはじめ佐渡八十八ヶ所巡り、七福神巡り、最近では、手芸(コサージュ作り)、裂き織り、整体体操、ヨガと研修内容も多岐にわたっています。

一日も早いコロナ終息を願いつつ、今後もこのような活動を通して会員相互の親睦を深めていきたいと思っています。

平 泉 保 育 園 訪 問

令和二年十一月二十七日(金)恒例となりました平泉保育園慰問に馳せ参じました。コロナの影響もありながら、私たちの要請を快く受け入れていただいた谷地田雅将園長先生はじめ保育園関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

読み聞かせ、手品、などなど、紙芝居を上演。橋本美子さんの読み聞かせでは『ちびくろさんぼ』を披露



平井英昭副長

していただきましたが、当作品は諸般の事情で絶版になっていたと聞いていたので、私自身も懐かしさもあり童心に帰って聞き入りました。加藤龍久布教長の手品、などなどでは園児達も大興奮。教員の経験を活かした子供たちへの対応は流石の一言、大いに盛り上げていただきました。

また、平井英昭副長の『ブツダ』(手塚治虫作)の紙芝居には園児達も食い入るように観賞。今回、仏教の教えを伝えられたことも大変有意義ではなかったかと感じています。(E. I)



橋本美子さん

太 鼓 講 習 会 ― 仏 青 活 動 報 告



マ ス ク 着 用 で 受 講

コロナ禍の中、想定するような活動ができない状況下、豊山派佐渡仏教青年会が「太鼓講習会」を開催いたしました。時は令和二年十一月八日(日)午後一時より、支所下四十四番、多田、長松寺本堂に於いて約二時間。参加者は手指消毒、マスク着用等の予防対策を徹底し熱心に受講されました。

講師は越後支所、燕市、本覚院副住職、澁谷快阿師。豊山派太鼓集団『千響』、越後支所太鼓集団『天鼓雷音』でも精力的に活動され、趣味でロックドラムも嗜むスベ

シヤリスト。悪天候の中、来島していただき資料(太鼓の楽譜)も豊富に用意いただき大変お世話になりました。

初心者も参加していたため、基本的な太鼓の前での構え方、バチ裁き、叩き方等を最初に習い、楽譜に基づき『般若心経』『観音経偈文』を最初はゆっくりと、最終的には講師と一緒に叩けるまでになりました。

佐渡では鬼太鼓、真言太鼓他、和太鼓に興味を持たれる方、または実際に演奏されている方も多いかと思われます。小中学校、保育園でも音楽教材として活用されている所もあるとお聞きしています。我々寺院の活動においても法要等で太鼓の演奏があると檀信徒皆様に喜ばれることが多いです。

早く今の状況が解消し、この日伝授された技を檀信徒皆様にお披露目できる日が来ることを心より願うご報告とさせていただきます。(E. I)

澁谷快阿先生の模範演奏



寺院探訪

佐渡宗務支所下十二番

紫雲山 観正寺
しうんざん かんしょうじ

佐渡市千種

住職 三國 正純



観正寺山門・本堂

当寺院は開基、開山ともに不詳だが、創立は弘仁時代(八一〇〜八二三)の始めと伝えられる。

本尊は金剛界大日如来、一般的なそれとは少し変わった尊像で弘法大師(お大師様)が智拳印を結び、五智の宝冠を戴いたお姿で、これは宮中清涼殿に於ける八宗論の折、勅命を被りてお大師様が即身に成仏の証を立て、忽ちに大日如来の身色を示現し給えるお姿をそのままに写した尊像であり、宮殿の扉の内にはその様子が拝写されている。当寺の明治二十六年の調書によると「伝教大師の作と伝えられている」とある。

また、本尊の前立の不動明王と二童子は平成十六年に私が中国の仏師に発注し勸請した尊像であり、毎年一月一日、檀信徒の所願成就、家内安全等々の元旦護摩祈禱を修し、その後総会を開き終了後、会食。お酒、手料理を振る舞い新年を祝っています。

また、御霊行事は諸寺院と同じく年二回行っています。八月第一日曜日と十二月第一日曜日で、この時は参加者と一緒「豊山派檀信徒のおつとめ」を唱和した後、ご先祖様に代わって心ばかりの手料理を召し上がっていただいています。

当寺は檀家数が二十五軒と少ないので、住職としての生活よりも会社員としての生活が主で布教活動はできていません。そこで、せめて檀信徒にできるだけ負担をかけないように、自分にできることは自分でやらなければと色々頑張っています。

本堂内の須弥壇の前机や護摩壇、脇机、位牌壇等は自作の物です。何分古い寺ですの直す所が沢山あり、楽しみながら少しずつ直しています。大きな修繕はどうしても、お檀家様に頼まなければ出来ませんので、少しでも皆様の負担が少なくなるようにと考えています。

内陣・護摩壇



佐渡宗務支所下二十三番

泡海山 定福寺
ほうかいざん じょうふくじ

佐渡市橘

住職 平井 英昭



海から臨む定福寺本堂

長手岬の東側に位置し、寺の前は橘の入り江で小さな港になっています。

入り江の対岸から寺を望むと海の上に建っている様子が伺われ、時化の時には荒波が入り江に入り波しぶきを上げ、まさに山号が泡海山と呼ばれるのが納得できます。

開基は保安(ほうあん)三年(一一二二年)高野山の僧常遠が弘法大師の真筆「紺紙金泥法華經」一巻を持参し寺を開き、寺号は興福善寺といたしました。ちなみにこの経は全部で八巻、高野山には七巻が残ると言われています。当初は高野山の末寺でした。

寺は現在地でなく、向かい側の山の中腹か、入り江の対岸となる差和地区の外れにあったといわれています。以後、何かの理由で移転しました。

天文(てんもん)十九年(一五五一年)現在の地に再建し、泡海山定福寺と称し、沢根の曼陀羅寺末寺となり、真言宗豊山派になりました。

明治新政府の神仏分離・廃仏毀釈により廃寺となりますが、明治十一年復旧再興します、定福寺の住職として私で二十一代目となります。佐渡四国霊場第十二番札所です。

本尊は大日如来様(金剛界)で、脇侍に薬師如来と地藏菩薩が置かれています。内陣には西国三十三観音霊場の本尊三十三体が置かれ内陣を一周することができます。

寺宝としては、狩野派の女流絵師清原雪信が書いた稚児文殊菩薩、柳鳩図、竹鶏の三幅があります。これは江戸東京博物館で平成十年に狩野派の三百年展を開催するにあたり、明治十年の全国寺院寺宝調査に、清原雪信の絵画が定福寺にあることが分かり、展覧会へ貸し出しとなりました。

また、歴史の中では伊能忠敬が佐渡測量の折に定福寺に泊まったと、忠敬の日記に記されています。

橘の周辺には旅館がなく、民宿が出来る昭和四十年代以前は本堂方丈の間に多くの画家が長期に宿泊し、多くの絵画を描いていきました。

令和の工事として参道整備が完了し、現在向拝(こはい)建築中で、いつでも安心してお参りできる寺を目指しています。

清原雪信書掛軸三幅

